

専門学校・短大専攻科・大学における助産師教育の実態

—その1、カリキュラム単位数の比較—

北里大学	○黒田 緑
国際医療福祉大学	江幡 芳枝
亀田医療技術専門学校	熊澤 美奈好
埼玉県立大学短期大学部	小田切 房子
新潟青陵大学	渡邊 典子
常磐大学	篠原 清夫

I 緒言

4年制大学（以下大学）における助産師教育の実態は様々な内部努力にもかかわらず質・量ともに多くの課題を有する。本報告の目的は、大学の助産師教育の実態をもとに1年課程における助産師教育の実態を調査することにより、大学における助産師教育の特徴と課題を明らかにし、助産師教育のあり方を再考することである。本調査全体をカリキュラム、実習、到達度の3つのパートに分け、その1では、カリキュラム単位数について報告する。

II 方法

1. 調査方法 調査票を用いた郵送調査。回答は各学校の助産学の担当責任者に依頼した。調査の目的を文書で伝え、任意解答、任意記名とした。
2. 調査対象・調査期間 4年制大学 89 大学（調査期間 平成 14 年 3～4 月）、専門学校・短大専攻科 60 校（調査期間 平成 15 年 8 月）。
3. 調査内容 学校の概要、教育・実習の実際、学習到達度、助産学教育の考え方等。

III 結果

1. 回収結果は大学 63 校 70.8%、専門学校・短大専攻科（以下1年課程）45 校 75.0%であった。大学の設置主体別数は国・公・私立に大差なく、1年課程では国立が少なかった。
2. 助産学科目の全単位数は平均で大学は 16.0 単位、短大・専攻科は 29.6 単位、専門学校は 34.9 単位で有意な差が認められた。表 1 の大学は、既卒者のいる大学の結果である。各科目の比較では、助産管理学を除くすべての科目に教育機関による有意差が認められるが、それぞれの違いに特徴があった。基礎助産学は、大学は最低単位数 1～2 単位に集中し、1年課程では 6 単位を最低限としそれ以上の単位数が教授されていた。地域母子保健は単位数の差ではなく教育機関の違いにより開講していない大学が 30 校（77%）あった。助産診断技術学は両機関で最も多くの学校が設定した単位数が 6 および 8 単位と接近しているが、大学においては 6 単位以下の学校が、1年課程においては 8 単位以上の学校が少なくないため両者に有意差がみられた。カリキュラム上の実習単位は大学では 4～8 単位、1年課程は 4～14 単位とそれぞれの機関においても差がみられた。大学では実習 6 単位の学校が最も多く、1年課程では 8 単位から 14 単位までの幅があり、単位数の集中はみられなかった。

IV 考察

本調査の結果から教育機関により教育内容に差があることが明らかとなった。一つの特徴は歴然とした単位数の差である。もう一つの特徴は地域母子保健のように、科目の存在の有無を表す結果が見られたことである。また各機関に共通する特徴としカリキュラム上の実習単位数と実際の単位数が異なる

現実があることがわかった。教育機関の違いによる単位数の差は、保健師助産師看護師養成所指定規則に定められた単位数とその運用をそれぞれの教育機関が自身の機関の実情に照らし合わせ、教育の実施者の教育理念等に基づいた教育展開の表れであると考えられる。実習のカリキュラム上の単位数は1学生が経験すべき単位数で、10例の介助をも視野に入れ複数の学生が行う実習であれば、実際の実習期間はカリキュラム単位数とは異なる場合も考えられる。厳密には各学生の実習時間数および10例の分娩介助に要する時間から割り出した実習期間が各大学の実習の実情に即した形で算出される必要がある。

大学における助産師教育が大学としての高等教育と助産の専門職の両方を求めることによって、その両者が正に相乗しているとは思われない。本調査の結果得られた大学の助産関連科目の総単位数の少なさは、科目の読み替えをおこなうことで助産師教育の体裁を整えている結果である。地域母子保健を開講していない大学が多く存在し、本来の助産師の活動として強化しなければならないはずの地域母子への関心をも十分に導き出せないと思われる状況である。また、助産師の活動を周産期にとどまらずライフステージ全般にわたって充実させようという理念は大学でもよく聞かれるが、現実のカリキュラムには十分反映されているとは言えない。

大学における助産師教育は、1年課程の教育機関との比較では、カリキュラム科目及び単位数において、大学教育で人間をグローバルにとらえ、助産理念としても地域に密着した母子への関わりを提唱しているにもかかわらず、理念を実現できるカリキュラム設定が相対的に十分であるとは言い難い。

また、1年課程の教育機関においても、助産師が求められる持つべき能力を基本として、さらにカリキュラム構築を考えることは大学同様必要なことと考える。

V 結論

助産師教育機関による比較では、大学の総単位数は有意に少なく、開講科目及び科目単位数に具体的に表われた。単位数の比較において従来の1年課程の教育機関が勝ったが、各機関とも助産師が備えるべき能力を基本としてカリキュラム構築をする必要がある。

表1. 助産学科目の必修選択単位の平均比較 (学校別)

科 目	大学	短大	専門学校	有意差
基礎助産学	2.3	7.2	8.9	P<.01
助産診断技術学	4.8	8.3	10.0	P<.01
助産管理学	1.2	1.1	1.1	n. s.
地域母子保健	0.5	1.2	1.4	P<.01
その他	0.7	2.9	1.9	P<.01
助産学実習	6.5	9.2	11.0	P<.01
合計 (単位)	16.0	29.6	34.9	P<.01